

第16回 福山市みどりの審議会 議事要旨

1 日時

2026年（令和8年）7月31日（金）10:00～11:40

2 場所

福山市役所 議会棟3階 第5委員会室

3 出席委員

鶴崎委員、大畑委員、高野委員、村上委員、浜本委員、
藤原委員、高森委員、石井委員、坂本委員、市川委員
※欠席（横山委員、宮本委員、門井委員、高山委員）

4 会議次第

（1）開会

（2）交代委員紹介

（3）審議事項

1号議案 福山市緑の基本計画の改定について

（4）その他

（5）閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者 1名

委員からの主な意見

【1号議案_福山市緑の基本計画の改定について（骨子案）】

委員

4 ページの市民アンケートの表示について、複数回答可のデータをパーセンテージで積み上げる形式は誤解を招くため、実数表示に修正すべきである。

5 ページの将来像のイラストが、実在の場所かイメージか不明確である。

6 ページのレイアウト・文字サイズ図が過度に引き伸ばされ、本文より文字が大きいなど全体バランスが悪い。

10 ページの推進体制図で「行政」が上にあるが、主役である「市民」を上配置した方がよいのではないか。

8 ページの満足度「50%以上」の目標値は高すぎる印象。中間年で目標値の変更は可能なのか懸念がある。

事務局

アンケートを誤解のない表示に修正し、将来像のイラストは、福山市の現状が変わったことがイメージできるものに差し替える。施策体系図は拡大のバランスを修正する。推進体制の図は「市民」が主役と伝わる配置に見直す。満足度 50%以上の目標値は積極的な達成目標として掲げたが、委員や関係者からの意見をいただきながら修正について検討する。

会長

満足度 50%目標は、20 年先を見据えた高い目標として現時点で掲げておいて良いと考えるが、10 年後の中間年次の「中間目標」の設定、および未達成時の修正手続きのあり方について事務局で検討してほしい。

事務局

「中間目標」を設定することも含め、目標値について検討する。

委員

3 ページの取り組み状況の記載の中に「維持管理の財政負担や人員不足」という課題が突然出てくるのは不自然なため、下の「福山市におけるみどり課題」の項目に整理すべきである。

6 ページの道路緑化の施策について、街路樹がない地域もあるため「地域の特性を踏まえた計画的な街路樹の更新」は難しいと思うが、どのように施策を行うのか教えてほしい。

事務局

取組状況の「維持管理の負担」の記述は「福山市におけるみどり課題」の項目へ修正する。

道路緑化の「地域」は9 ページのような地理的区分ではなく、例えば住宅地域の主要な道路、住宅地域の一般道路、商業地域の主要な道路などの6 区分を想定している。それぞれ推奨する樹木を設定した上で、地域の皆様の意見を伺いながら更新していく考えであり、誤解のない表現に改める。

委員

3 ページの指標の緑被率 22%の数値だけでは、みどりが多いのか少ないのか判断しにくい。全国平均値や類似都市のデータなど比較できる数字を併記して、市民に分かりやすくしてほしい。

事務局

全国平均や類似都市との数値比較など、市民に分かりやすく伝えられるよう工夫する。

委員

緑は市民の暮らしを良くする面もあれば、悪くする面もある。悪い面を減らすことで質が上がっていく。ポイントは多様な主体との連携だと思うが、簡単ではないので、定期的な進捗確認というのにも必要だと思う。

また、様々な施策があるが「検討する」という文言がいろんなところに使用されている。10年・20年の長期計画で「検討する」と書く以上、どのように進展したかを追跡・評価することも必要だと思う。

自治会に管理を委託している公園については、資材の提供など伴走支援が行われているが、公園以外の公共用地でも法面の除草などを地域住民がボランティアで行っているところが多い。地域も高齢化により限界を迎えている。「公園以外の公共用地（道路法面・路肩等）」への伴走支援の視点を入れていただきたい。

事務局

進捗管理の方法については、関係課と協議し整理する。

公園以外の公共用地の維持管理問題も切実な課題であり、施策の中で支援のあり方を検討する。

委員

AIイラストについて、車の逆走、片側しかない歩道、廃止傾向の遊具など、不自然な絵が多い。福山市も誇れる景観があるので、実際の福山市の風景写真を使用し、アピールの場にしたらいいのではないかな。自然保全ゾーンのイメージで「水源かん養林」の表記が位置と合っていない。実際の福山市の森林計画と照らし合わせても事実と異なるため修正が必要である。

4ページの基本理念のポイントが「量から質へ」としているが、量を維持する施策も重要であり個別施策に位置付けてある。冒頭で「量から質へ」と言い切ると「量はもう不要」と誤解される。量も大事だよっていうところは、最初にしっかり言った方がよい。

また、計画理念とローズマインドの繋がりについて、丁寧に説明したほうがよい。

8ページの基本方針5の施策「公園や緑地・街路樹の災害リスクの軽減」は、近年の倒木・落枝リスクに対する対策として定期点検や診断をしていると思うが、これを「進捗管理項目」に明確に位置づけるべきである。

8ページの「生物多様性の保全への貢献」に特定外来生物対策（クビアカツヤカミキリ等）への視点を入れると、生物多様性への保全やネイチャーポジティブにもつながっていくのではないかな。

「エコロジカルネットワーク」という表現は古いため、国の戦略等で用いられる「生態系ネットワーク」などの現在の計画の用語を使う方が良い。

事務局

イメージ図の差し替え、水源かん養林の表記修正、「量から質へ」の表現見直しを行う。

「ローズマインド」の丁寧な説明や街路樹点検の進捗管理項目化、特定外来生物対策の追加を行う。また、「生態系ネットワーク」等への用語について、言葉の定義を確認した上で改める。

委員

7 ページの保護樹木の維持管理に対する支援について、現状の年間管理費 3,000 円では治療や維持が困難。「支援の拡充を検討」の“検討”を外し、必要な対応ができるよう「拡充する」と言い切ってほしい。

事務局

現状の支援は十分ではないことは認識しており、拡充に努めたい。予算を伴うため素案段階で「検討」と表現せざるを得ない面もあるが、事務局として拡充に向けて調整する。

委員

福山城周辺の歴史的風致や社寺林と緑の関わりを「市街地の緑」に反映することで、他の計画（歴史的風致維持向上計画）と整合性がとりやすくなる。

福山市といえば、市街地の中に小規模農地が点在しているところが特徴である。広島市では農政とは異なるアプローチで、生産緑地もやってみようというところで JA が仲介して都市農業の振興をしているところもある。公園を新しく作ることは難しいが、オープンスペースの緑地空間として農地を守ったり活かしたりする取り組みについても検討していただきたい。

会長

農地に関しては、福山市の特産品である「くわい」もある。それらを活用できるように計画の中に織り込むことを検討してほしい。

事務局

福山市の貴重な緑について知ってもらう機会なので、みどりの計画に福山市の特徴について丁寧に触れるようする。

生産緑地制度の導入や都市農業の振興については、都市計画法・税制等との兼ね合いや運用の難しさがあるため、関係部局と慎重に検討・調整する。

委員

生産緑地のことについては、これまでも長きにわたって都市計画課で議論をしてきた。事務局からもあったように都市計画法との関係と制度の運用の難しさなどなど、税法とも絡んでくる。事務局で慎重に検討させていただく。

委員

骨子案と素案の間でアンケートの設問名（緑に期待する役割等）や基本理念の図（階層図）の対応関係にばらつきがあるため、結論に向けて細部まで丁寧に突合してほしい。

会長

基本理念で「多様な主体が連携し」という表現について、文章で説明をされたということだが、ぱっと目に入るのは「多様な主体が」っていう文字が目に入ってきて、これが本当に何を指すのかわかりにくいと感じる。この説明の文章をこのまま生かすということであれば、どういうものが主体となるのかっていうのがもう少しわかりやすい表現にしていきたい。

事務局

また会長とも調整をさせていただき、よりわかりやすい丁寧な表現に改める。

会長

本日の意見や提案について事務局で整理し、計画案に反映していただきたい。

以上